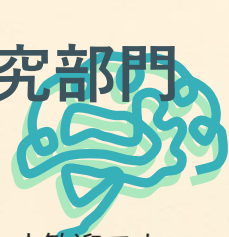




第3回パラレル脳Xモーダル研究部門 勉強会・セミナー



本講演は公開セミナーです。学生の参加も大歓迎です

がん悪液質の早期病態における
時計遺伝子が繋ぐ脳-末梢ネットワークを介した
生体恒常性制御機構の解明と治療法の創出

演者： 笠井 智香（東京理科大学 薬学部 助教）

Date: 2026年7月29日（水）12:10-12:50

Location: online (Teams)

がん悪液質は、体重減少、食欲不振を主症状とする多因子性の症候群で、進行がん患者の約50-80%に認められるがんの重大な合併症である。

がんによる炎症性サイトカインや様々な生理活性物質の放出によって、脂肪分解、骨格筋減少、代謝障害、食欲抑制が生じ、体重減少や抗がん剤の効果の減少が起き、QOLの減少が誘導される。がん悪液質を治療もしくは予防できれば、がん治療に大きな革新がもたらされることが期待できるが、有効な治療法はまだ限定的である。癌悪液質は進行すると治療が困難となるため、体重減少がわずかである前悪液質という段階で治療できると望ましいと考えられている。そこで、初期症状である脂肪萎縮に着目し、前悪液質期における、早期介入につながる手がかりを見つけることを試みた。

時計遺伝子は、生体リズムを約24時間周期で制御する遺伝子群であり、その発現リズムを介して代謝、免疫、睡眠・覚醒、情動など多様な生体恒常性の維持に関与している。前悪液質期において脂肪萎縮が最も早く生じることから、全身の代謝を制御する概日リズムとがん悪液質の関係について検討を行った。本講演では、これまでの研究成果を紹介するとともに、その知見に基づく新たな治療戦略の可能性について議論する。

Teams配信による講演です。詳細は別途部門関係者にご案内します。

主催: パラレル脳クロスモーダル研究部門

東京理科大学における脳研究の学際的連携基盤の構築を目的として、2016年度に脳学際研究部門（BIRD）が設立されました。その後、2021年よりパラレル脳部門へと継承され、2026年にはこれまでの研究基盤を発展させる形で、「パラレル脳クロスモーダル研究部門」として再編されました。本部門では、脳神経研究のさらなる発展を目指し、学内外の研究機関との共同研究を推進しています。

世話人：薬学部薬学科 笠井 智香 satoka_kasai@rs.tus.ac.jp